



No.3

農業技術情報

令和3年5月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



葉いもち防除は適確に実施

昨年の発生量が多かったことから、今年の苗いもちの発生量はやや多いと予報されています。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。昨年の発生地域を中心に警戒を怠らずに徹底防除をしてください。

補植用余り苗は速やかに処分

補植用余り苗は、圃場にあるだけでいもち病の伝染源となります。補植作業が終わったら、ただちに土中に埋没するなど確実に処分してください。

もしも、見つけたら。。。

いもち病を見つけたら速やかに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤等）の茎葉散布を行います。併せて、営農センター・営農課へご相談ください。

ほ場の3密にご注意を

田植え時に苗が重なって“密”になっている箇所や、肥料が重なり“密”になっている箇所、降雨や朝露などによって葉が濡れて葉面水分が“密”になっている箇所の“3密”圃場を中心に、いもち病無防除圃場の隣接圃場も合わせて、定期的に葉色の濃い部分に病斑が無いか様子を確認してください。

主食用米以外もいもち防除を

WCSや飼料用米等のほ場でもいもち防除を必ず行ってください。

葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用を行っていない場合はオリゼメートを散布してください。

薬品名	オリゼメート粒剤
散布時期	6月15日頃
散布量	2～3kg/10a

緊急対策時（例）

薬品名	散布時期	散布量
ブラシン	発生確認時	粉剤DL：3～4kg/10a フロアブル：1,000倍液 60～150リットル/10a

異常気象に備える「転ばぬ先の杖」

昨年は7月からの日照不足、多雨と8月中旬からの高温登熟と実感としての豊作とはなりません。毎年、異常気象が来るものと心構え、いまから出来る準備を積極的に行ってください。

暑いとき

土壤の異常還元（ワキ）に注意!!

耕深が浅い場合、生ワラが一気に分解を進めガス（硫化水素等）が発生し土壤が酸素欠乏になります。根の伸長が抑えられ、葉色が淡く、分げつ不足となります。圃場に足を入れた時に「ブクブク」と発生する気泡が、軽い場合は水の入れ替えを行い、盛んに気泡が発生する場合は夜間落水とし、土中に空気を入れます。6月中旬で茎数が目標茎数となった場合は中干しの準備に入ります。

茎数が不足している場合は、**硫マグ**（硫酸根肥料）を施肥（現物20kg/10a）し、茎数確保に努めます。更に、葉色が淡い場合は、**硫酸**（現物5kg/10a程度）を追肥しますが、散布時期は6月下旬までとします。

曇天・低温時

分げつ確保を最優先!!

浅水管理による日較差を利用し分げつを促進させますが、低温時は深水管理で保温管理とします。

基肥一発型肥料のみ施用の圃場は、**硫酸**（現物5～10kg/10a程度）追肥し、肥効（溶出）の遅れを補います。

基肥でケイ酸肥料を施用していない場合

どのような気象であっても、稲とケイ酸は「密」な関係。

高温時…葉で行う「呼吸」により稲体温度を下げ、光合成を盛んにし、十分な稔りにつなげます。

低温時…茎・根の活力を向上させ、分げつ確保に働きます。細胞がケイ酸の「鎧」をまとふことにより、いもち病菌の侵入を防ぎ、健全な稲体を維持します。

ケイ酸は、最高分げつ期以降、急激に吸収されるので、6月下旬以降の散布は「効果が半減」します。

けい酸加里 (20kg/10a)

ケイ酸と加里を含み、葉を硬くし受光体勢を良くすることにより登熟が向上します。

おばこロマン大地 (40kg/10a)

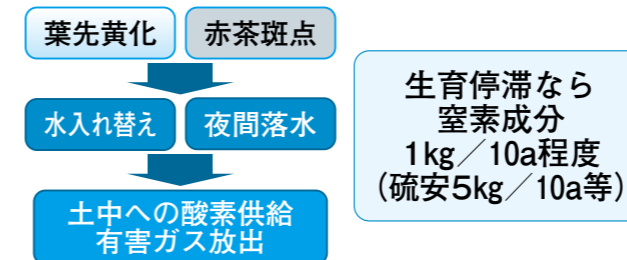
速効の「ケイサンエース」を70%含み、効率的にケイ酸を供給します。

マグコープ (20kg/10a)

リン酸と良食味米に寄与する苦土を含み、土壤を選ばない中間追肥資材です。

異常還元（ワキ）注意報

昨年作ではワラが多かったほか、今年は高温傾向で推移する予報がされているため、未熟有機物の分解が急速に進み、異常還元（ワキ）が起こる可能性が非常に高いです。イネの生育が停滞しているようだったら、土中のガス抜きをし、症状が激しい場合は追肥が必要です。



深水・中干し

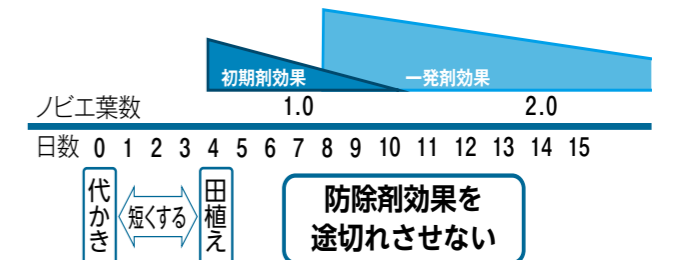
6月20日頃に生育調査を行い、あきたこまち有効茎決定期の目標茎数346本/miの8割（277本/mi）を確保したら水深15cm以上の深水管理を1週間ほど行い太い茎を作りましょう。その後、中干しに入ります。中干し後も分げつは発生するので、少し早い気がしても余裕を持って中干しに入ってください。

277本/miの目安	
栽植密度	株あたり茎数
70株植	13本
60株植	15本
50株植	18本

- 277本/mi以上 直ちに中干しを行う。
- 277本/mi確保 深水管理を行い中干しを行う。
- 277本/mi未満 有効茎確保後軽めの中干しを行う。

雑草対策

春から気温が高く推移しており、地温も暖められ雑草の生育が早まっています。除草剤を適期に散布できるよう計画的に作業をしましょう。初期剤の残効が残っているうちに一発剤を散布し、除草効果を途切れさせないようにすることがポイントです。



異常気象に備える

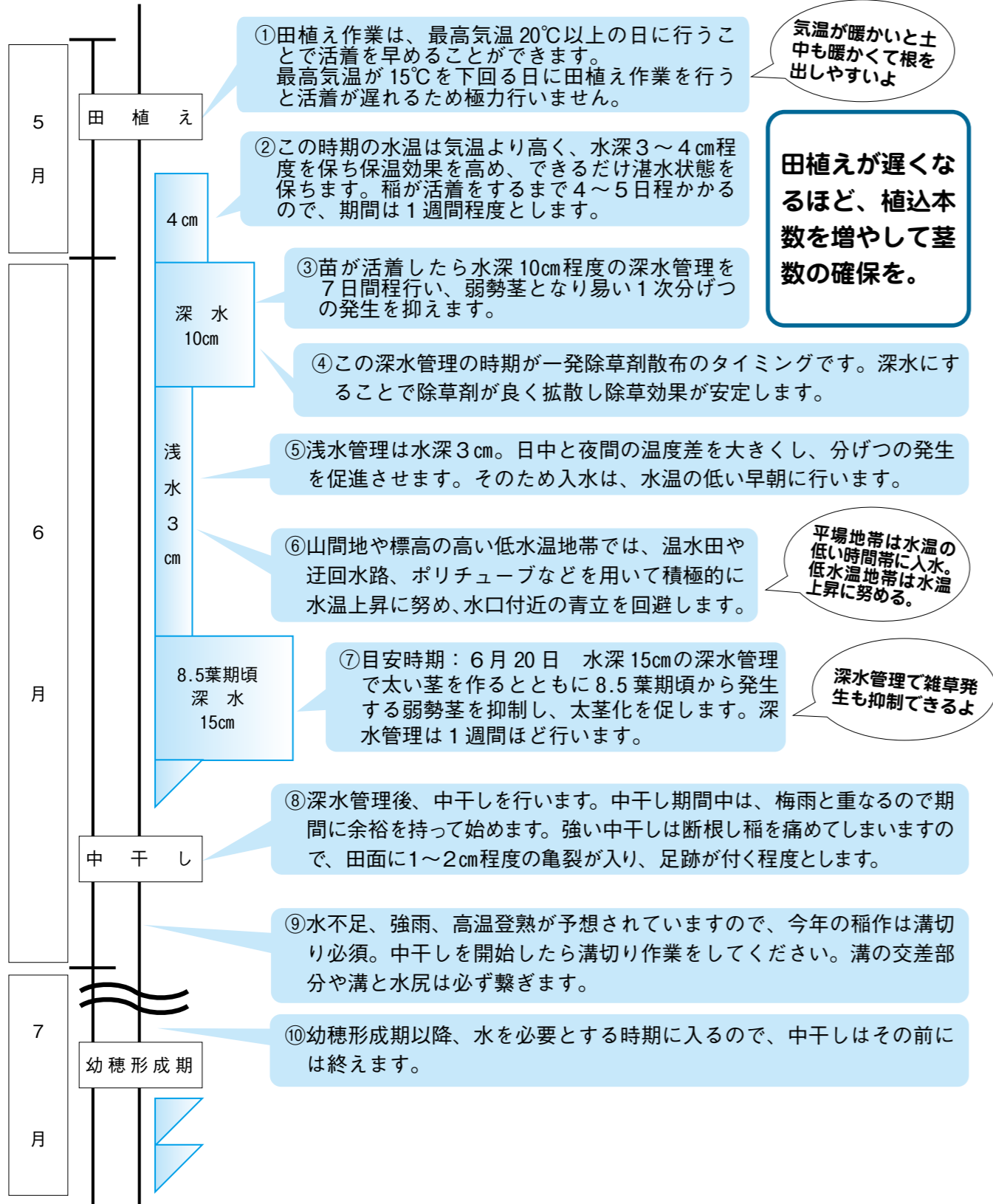
近年は、猛暑や低温、日照不足、豪雨といった極端な天候に毎年遭遇しています。今年も必ず来ると認識し、対策をしたうえで栽培管理をしていくことが重要です。

畦畔や水口・尻などが壊れていないか、稲の様子を日々観察し、異常を感じたら原因を究明し対策を講じます。天気予報を確認したり、地域で情報交換したりすることで、天地の災いを人の力で乗り越えていきましょう。

初期生育確保に向けてスタートダッシュ

穂の絶対数が少なければ、いくら籾数を多くしても高収量は望めません。活着から始まる分けつ開始から、穂数がほぼ決まる7月中旬までにどれだけ必要な茎数を揃えることができるかがポイントです。初期生育を旺盛にする水管理を心がけてください。

収量計算方程式 $収量 = 穂数 \times 籾数 \times 登熟歩合 \times 千粒重$
 ↑重要!!



除草剤を効果的に効かせるポイント

昨年、残草したほ場では、昨年以上の発生が見込まれます。加えて今年は春先から気温が高く推移しているため、雑草の生育進捗が早くなり、除草剤の散布遅れが心配されます。いくら高価な除草剤でも使用時期が遅れたり、田面均平が悪かったり、部分的に水がかからない（露出している）場合、除草剤の効果は十分に発揮されません。

少し早めの散布を！

ラベルに3葉期までと記載されているものでも、0.5~1.0葉程度早めに散布することで、除草剤の効果が安定し、雑草密度を大幅に減少させることができます。（注：代かきから10日間でノビエは2葉期になります。）

計画的な作業を！

除草剤効果を一番発揮させるポイントは「タイミング」です。今年は雑草の動きも早いとみられることから散布遅れにならないように、代かき日、田植え日、初期剤散布日、一発剤散布日をしっかりと把握し計画的な作業をお願いします。

漏水箇所の点検保守を！

除草剤散布後、薬の層（処理層）が田面に出来るまでおよそ4日かかります。漏水箇所があると処理層の形成がうまくできず効果が発揮されません。

水深5cm以上の確保を！

除草剤成分が拡散していくためには、水深5cm以上の確保が必要です。フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤は7cm以上の水深で拡散が安定します。田面が水面から露出しないようにしてください。

⚠ 表層剥離(カナ) 注意報

今年は異常還元(ワキ)に注意が必要ですが、合わせて表層剥離(カナ)の発生にも注意が必要です。カナは除草剤の処理層を壊してしまうため、除草剤の散布タイミングに注意をしてください。

ポイント

降雨後の散布

散布前に水入れ替え

ねえねえ
何で?除草するの?

収量品質が低下

斑点米増加で落等

異物混入

収入減少

だから、除草防除が必要なのです!

とりこぼしたら中後期除草剤

薬剤名	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	コナギ	散布方法
トドメMF	5~7葉期まで (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布
クリンチャー	4~6葉期 (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布
ヒエクリーン	4葉期まで	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布
バサグラン	効果なし	増殖中期まで	発生揃期まで	○	落水散布
アトトリ	4葉期まで	効果なし	矢尻葉3葉期まで	効果なし	湛水散布
ヒエクリーン バサグラン	4葉期まで	4葉期まで	矢尻葉抽出期まで	○	極浅く湛水
クリンチャーパス	5葉期まで	増殖中期まで	発生盛期まで	○	落水・極浅く湛水
レプラス	4葉期まで	花茎10cmまで	矢尻葉3葉期まで	6葉期まで	湛水散布